

2019年度
(令和元年度)

事業報告書

目次

I	2019年度事業報告	2
	1. 国内における平和構築活動	2
	2. 海外における平和構築活動	11
	3. 財務体質の強化	16
II	組織	17
III	会議	21



公益社団法人
日本ユネスコ協会連盟

Peace for Tomorrow 広げよう平和の心

2019 年度事業報告にあたって

2019 年度は、2 年に一度の役員・評議員改選の年に当たります。佐藤美樹新会長のもと、新たな布陣で、民間ユネスコ運動の更なる発展に向けた一歩を踏み出しました。

特筆すべきは、「世界寺子屋運動」が、30 周年という記念すべき年を迎えたことです。

1989 年、国際識字年を前に、“世界平和の礎を築くうえで、途上国の貧困の悪循環を断ち切るための教育が必要不可欠”との考えに基づき、日ユ協連独自の運動としてスタートしました。以来、実に多くの方々のご理解とご協力のもと、44 カ国 1 地域において、131 万人以上の方々の学びを支えることができました。

30 周年を記念し、東京で開催した「第 75 回日本ユネスコ運動全国大会 in 東京」には、アフガニスタン、カンボジア、ネパールから元学習者を招聘し、今や学校長、高校生、市議員として、それぞれの立場から、地域社会地域を支え、その将来を築く大切な人材として活躍する人たちの話を聞く機会を得ました。私たちの地道な活動が、地域社会が貧困から脱し、明るい将来をきづくために欠くことのできない人材育成の場、自立への歩みの場になっていることを、改めて確認することが出来ました。

他方、私たちの組織強化の一環として、当協会連盟の 4 種の会員のうち、私たちの活動を文字通り維持する維持会員とのコミュニケーション強化を図ることに力を注ぎました。会員各社に出向き、活動を報告し、会員証をお渡しするという具体的な取り組みに着手し、会員の減少を食い止め、さらに新しい維持会員獲得にも努力しました。その結果、一時期、100 社を割り込んでいた維持会員企業数は、年度末には 141 社を数えるまで回復しました。また、同時に、全国の構成団体会員とともに、2018 年度に決議した「会員増強キャンペーン」を、新たに開始しました。

日々刻々、多種多様な課題が生起する現代の国際社会にあって、私たちは自らのミッション「平和な世界の構築」「持続可能な社会の推進」の実現に向けて、それぞれの場で着実に活動を展開していくことが求められています。そして、それこそが、私たちの存在意義を確かなものにする道だと言っても過言ではないでしょう。

国内外の社会が大きな転換点にある今日だからこそ、地道な日常活動の積み重ねの意義は一層重みを持ちます。民間ユネスコ運動の果たす役割も大きくなっています。私たちの活動が、ともに次年度、そして更なる未来に繋がっていくことを願い、2019 年度の事業報告書とさせていただきます。

追記

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、3 月 14 日の「第 534 回理事会」は書面開催としました。また、同じく 3 月に予定していた世界寺子屋運動の協力団体を対象としたカンボジアスタディツアーも中止としました。

I 2019 年度事業報告

1. 国内における平和構築活動

(1) 普及実践活動

当連盟のミッション1の「平和な世界の実現」という大きな課題とミッションに向け、草の根から積極的に「平和の文化」の構築を目指す活動を展開した。

① 第75回日本ユネスコ運動全国大会in東京

全国のユネスコ会員が東京都豊島区立目白小学校に一堂に会し、会員及び開催地市民等を対象に、「“世界寺子屋運動30周年記念”学びを通して地域を振り返る」をテーマに、民間ユネスコ運動のメッセージを社会に発信した。

大会一日目は、寺子屋運動で文字を学び社会や学校で活動している、カンボジア、アフガニスタン、ネパール元学習者に、学習の成果を語ってもらうとともに、元ユネスコ生涯学習研究所の専門家ウルリケ・ハネマン博士を迎え、世界寺子屋運動が持続可能な開発に果たす役割を聞いた。続いて国内の運動を支えていただいている、“世界寺子屋運動”名古屋実行委員会事務局の方を始め、諸団体・ユネスコ協会・識者の方々を迎え、これまでの成果と今後の展望について検討する機会とした。また、大会二日目は、多文化共生時代の国内教育の現状・課題について、行政・NPO等を含め、多様な経験を持つ各識者からの問題提起などを通して、民間ユネスコ運動としてできる事について検討するとともに、映画監督山田洋次氏に「寅さんの学校論」を語っていただき、今後私たちの果たせる役割を考察した。

「テーマ “世界寺子屋運動30周年記念” 学びを通して地域を振り返る」

日 程 2019年9月7日～8日（土・日）

会 場 豊島区立目白小学校（東京都豊島区）

主 催 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

共 催 東京都ユネスコ連絡協議会

② ブロック別ユネスコ活動研究会

民間ユネスコ運動推進のため、会員及び開催地市民への研究会として、全国の9ブロックで開催した。会員の拡充を共通テーマとして、下記9ブロックで研究会を開催し、合計で約1,800人が参加した。

中国ブロック・ユネスコ活動研究会（岡山県岡山市） 2019年9月28日

四国ブロック・ユネスコ活動研究会（愛媛県新居浜市） 2019年9月28日～29日

関東ブロック・ユネスコ活動研究会（埼玉県蓮田市）	2019年10月5日～6日
近畿ブロック・ユネスコ活動研究会（大阪府堺市）	2019年10月5日～6日
東北ブロック・ユネスコ活動研究会（岩手県遠野市）	2019年10月19日～20日
北海道ブロック・ユネスコ活動研究会（北海道札幌市）	2019年11月2日～3日
中部東ブロック・ユネスコ活動研究会（静岡県磐田市）	2019年11月9日～10日
中部西ブロック・ユネスコ活動研究会（石川県金沢市）	2019年11月9日～10日
九州ブロック・ユネスコ活動研究会（福岡県久留米市）	2019年11月9日～10日

③ 民間ユネスコ運動の日

7月19日の民間ユネスコ運動の日と8月15日を中心に、全国各地でユネスコ活動を広く社会に伝える活動を実施した。約100のユネスコ協会・クラブが主体的に実施し、恒例となった「平和の鐘（かね・おと）を鳴らそう！」では、広く市民に開かれた平和を願う多彩な活動が展開された。

(2) 青少年活動

UNESCO憲章の理念に基づき、持続可能な社会、「誰一人置き去りにしない」社会づくりを目指し、児童・青少年の健全な育成に努めることを目的に以下の各活動を行った。

① 被災地における青少年を対象とした教育復興支援

A) ユネスコ協会就学支援奨学金

東日本大震災により経済状況が悪化した家庭の子どもを対象に、給付型奨学金（一人当たり2万円/月・3年間）を支援する事業において、2019年度は608名の生徒を支援した。

B) MUFJ・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金

三菱UFJフィナンシャル・グループと共催で、東日本大震災で遺児孤児となった子どもたちへの「奨学金プログラム」等を継続して実施した。2019年度は457名の対象者に奨学金給付を行った。

C) 「東日本大震災 教育復興支援レポート2018」の制作

募金により実施した東日本大震災子ども支援募金事業の成果を、募金者に報告するために「東日本大震災 教育復興支援レポート2018」を制作・配布した。

② 次世代育成のための青少年活動の支援

A) 「ユネスコ協会ESDパスポート」事業

子どもたちが、世界や地域社会の課題に目を向け、自ら考え、行動することを目的に、ESDパスポートを持った子どもたちが課題解決のために行動するボランティアの参加促進のツールとしてパスポートを発行・配布する事業。ユネスコ協会・クラブや地域の団体が主催するボランティア活動に参加を奨励し、参加回数に応じてユネスコ協会・クラブから活動認定書を発行し、ボランティア体験発表会等で顕彰する活動を行っている。

ユネスコスクールとユネスコ協会・クラブの連携強化事業である本事業は、ESD グローバル・アクション・プログラム（GAP）の一環として行っており、最終年となる本年度は、全国で26の都道府県ユネスコ連絡協議会・ユネスコ協会・クラブの働きかけを通して、新たに15,000人弱の児童・生徒がパスポートを活用した。

—2019年度配布 都道府県連・協会・クラブ—

室蘭ユネスコ協会、仙台ユネスコ協会、藤岡地方ユネスコ協会、新宿ユネスコ協会、玉川大学ユネスコクラブ、成田ユネスコ協会、船橋ユネスコ協会、鎌倉ユネスコ協会、甲府ユネスコ協会、静岡ユネスコ協会、磐田ユネスコ協会、富山ユネスコ協会、名古屋ユネスコ協会、豊橋ユネスコ協会、岐阜県ユネスコ協会、大垣ユネスコ協会、大阪府ユネスコ連絡協議会、芦屋ユネスコ協会、岡山ユネスコ協会、岩国ユネスコ協会、萩ユネスコ協会、防府ユネスコ協会、徳山ユネスコ協会、徳島ユネスコ協会、新居浜ユネスコ協会、都城ユネスコ協会

B) 青少年ユネスコ活動助成

各地ユネスコ協会・クラブから優れた地域活動、特に、当協会連盟のビジョン・ミッションに基づく、青少年向けの新規事業を優先して公募し、各分野で助成した。

日 時：2019年5月7日（審査会実施日）

内 容：46のユネスコ協会・クラブ（48事業）の市民に開かれた活動申請に対し、47事業に助成金（2,480,000円）を拠出し、地域における民間ユネスコ運動の進展を図った。

申請対象分野と助成額：

分野1 青少年へのユネスコ普及活動事業（「わたしの町のたからもの」絵画展事業等）／助成額：1協会あたり上限5万円 対象33事業

分野2 ユネスコ協会・クラブに所属する青年が中心となつて行う社会的課題の解決に資する事業／助成額：1協会あたり上限10万円 対象10事業

分野3 ユネスコスクールや学校内ユネスコ活動とユネスコ協会・クラブの連携強化に資する事業（例：ユネスコスクール対象活動発表会、学校教員向けユネスコスクール研修会等）／助成額：1協会あたり上限5万円 対象4事業

③ スタディツアー

A) 内閣府の永年国際交流事業に対する青年会員の推薦

内閣府が実施する青年国際交流事業に対し、ユネスコ協会・クラブの会員の中から参加希望者を募集する事業。応募のあった会員を当協会連盟として審査し、内閣府に推薦している。2019年度は推薦した会員の中から、1名が国際社会青年育成事業に参加した。

B) 「高校生を対象としたカンボジアスタディツアー」の実施

公益財団法人かめのり財団との共催で7月30日～8月6日にかけて、「第6回高校生カンボジアスタディツアー」（団長：有里泰徳 都城ユネスコ協会事務局長）を実施した。ユネスコスクール校長または全国ユ協会長推薦を受けた学生を対象に、72名の応募の中から選抜された10名を現地に派遣し、ノンフォーマル教育を通じた貧困問題の解決や、世界遺産・無形文化遺産の継承などさまざまな視点からの学びを提供した。

—参加者所属校—

立教女学院高等学校、愛媛県立新居浜南高等学校、広島大学附属高等学校、奈良市立一条高等学校、東京都立三田高等学校、不二聖心女子学院高等学校、秋田県立秋田高等学校、千葉県立千葉東高等学校、北海道大谷室蘭高等学校、大阪教育大学附属高等学校池田校舎

④ ユネスコスクールの普及活動

- ・「第 11 期ユネスコスクール SDGs アシストプロジェクト」（旧名称：ユネスコスクール ESD アシストプロジェクト）

株式会社三菱 UFJ 銀行の協力を得て、全国のユネスコスクール加盟校を対象に、SDGs の達成を目指す ESD の取り組みを支援するプロジェクトで、今期は、申請 164 校のうち 65 校に対して助成を行った。（上限 10 万円枠：60 校/30 万円枠※：5 校）

※30 万円枠…2 年間の継続的な事業を対象として、2019 年度新設。

— 第 11 期分野別応募状況（複数記述） —

環境学習	国際理解	平和・人権	世界遺産・地域遺産学習	防災・減災教育	その他
123	66	53	57	48	27

また 11 月 30 日に開催された「第 11 回ユネスコスクール全国大会／ESD 研究大会」では、当連盟初となる分科会を開き、「平和のための学び ESD for SDGs～持続可能な社会づくりに向けて育む力～」をテーマに、約 60 名の参加者と共に学び合いを深めた。

⑤ 寺子屋リーフレット制作プロジェクト

小・中・高等学校を対象に世界寺子屋運動を題材としたアクティブ・ラーニングの普及をはかることを目的に実施する事業。児童生徒が非識字という世界的課題を学び、自ら考え、書きそんじハガキ回収による募金協力を呼びかけるリーフレットをデジタル機器で制作する。2019 年度「リーフレット・コンテスト」には、全国から 13 校約 1,300 人の児童生徒が参加した。リーフレット制作に加え、多くの児童生徒が自作のリーフレットを活用するなどして、実際に書きそんじハガキ回収活動を行った。

⑥ 教員研修会

アクサ生命保険株式会社の協力を得て、「第 6 回 アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム」を実施し、被災地の教育現場の経験と教訓を全国の学校の減災（防災）教育に活かすことを目的に、減災教育に取り組む学校への助成金公募を行った。審査の上、35 校を選考し、助成金を支援した。9 月 16 日～18 日には、助成校の教員

35校・35名の教員を対象に、被災地・気仙沼市等をフィールドに教員研修会を実施した。また2020年2月21日に開催した活動報告会には、助成校の教員32校・36名が参加した。2020年2月22日に開催した公開の減災教育フォーラムには、日本各地から81名の教員らが参加し、減災教育に関する学びと議論を深めた。

⑦ ユネスコユースセミナー(フォーラム)

青少年へのユネスコ活動の普及や持続可能な社会の推進のため、高校生を含む次世代の育成を目的とした本事業では、2020年1月12～13日に岐阜県で開催された全国的青年連絡組織主催「青年全国大会」にて、「ユネスコ活動イノベーションワークショップ」を実施した。民間ユネスコ活動に参加している青年約40名を対象に、日本ユネスコ協会連盟の活動の紹介とユネスコ協会の活動を見直し、より良くするアイデアを出しあうワークショップを行った。

⑧ 守ろう地球のたからもの

「国連・持続可能な開発のための教育の10年」に基づき、三菱UFJフィナンシャル・グループとの共催で「世界遺産『白神山地』周辺地域への育樹ボランティアによる環境保護活動」と「みどりの絵コンクール」を実施してきた。このうち前者は、同フィナンシャル・グループが本年度活動を終了することとしたため、11月22日、協力団体である津軽人文自然科学研究会とともに総括を目的とした会合を実施した。他方第44回目を迎えた公益財団法人三菱UFJ環境財団との共催事業「みどりの絵コンクール」による環境意識の啓発では、コンクールへの応募総数25,342点の中から、最優秀賞9人、優秀賞32人、入選349人を選考し、2019年12月7日、東京都千代田区で最優秀賞の表彰式を実施した。

⑨ 第14回「三菱アジア子ども絵日記フェスタ」の共催

三菱広報委員会、アジア太平洋ユネスコ協会クラブ連盟(AFUCA)との共催で、1990年から実施。アジアの6歳～12歳を対象とした絵日記コンテストを通じ、青少年の国際相互理解を促進することを目的とした事業。2019年度は、アジア24の国・地域の子どもたちから絵日記作品を公募し、66,473の作品応募があった。2月13日には、国内作品募集に伴う各地の小学校や教育関係の方々との対話を通じた新たな貢献として、茨城県つくば市立学園の森義務教育学校の生徒を対象に、絵日記作品を題材としたSDGsと企業の役割に関する出前授業を実施した。

⑩ その他の関連事業

MSD株式会社と、「いのちと健康」をテーマに小学校5、6年生を主な対象にした「サイエンス・スクール」出前授業を協働で実施する事業。2019年度は、全国4校で授業を行い、子どもたちが、身体のメカニズム、薬の発見、科学者たちのルールを学ぶと同時に、ウイルスの鍵穴ワークショップを体験し、生命や科学への興味を持つきっかけを得た。

—実施4校（実施順）—

浦添市立前添小学校、津市立南立誠小学校、富山市立中央小学校
熊谷市立長井小学校

—協力ユネスコ協会—

沖縄県ユネスコ協会、三重県ユネスコ連絡協議会、津ユネスコ協会
富山ユネスコ協会

(3) 組織の拡大とユネスコ活動の充実

民間ユネスコ運動に携わるボランティアの更なる育成強化をはかるために下記の事業を実施した。

- ・地域ユネスコ活動支援
- ・ユネスコ協会活動振興のための顕彰
- ・ユネスコ協会設立の勧誘と支援
- ・ユネスコ協会便の配信
- ・「絵で伝えよう！わたしの町のたからもの」会長賞の賞状授与
- ・ユネスコ運動推進のための研修

(4) 普及広報活動

一般市民に分かりやすく広報活動を行い、活動レポートをはじめ各種広報媒体を通して募金協力者等への説明責任を果たした。

① 広報活動

機関誌「ユネスコ」の季刊/年4回発行、活動レポート発行、パンフレット制作・配付、ホームページ更新、広報特使等との協働、書きそんじハガキ・キャンペーンの呼びかけ等を行った。

② その他の関連事業

ユネスコ活動や、スポーツを通じての平和のメッセージの広報を目的に、都市対抗野球大会の優勝チームに、日本ユネスコ協会連盟フェアプレー賞を授与した。

(5) 世界遺産・地域遺産の保全活動

世界遺産及び地域に残る有形・無形の文化や自然の価値を広く一般に伝え、保全を推進した。

① UNESCOの世界遺産普及のための広報活動

2019年10月31日に発生した火災により焼失した「首里城」（「首里城跡」として、2000年に世界遺産リストに記載された「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の構成資産の一つ）の復興支援に向け、「首里城復興ユネスコ募金」を開設し、募金の受け付けを行った。

② 未来遺産運動

100年後の子どもたちに地域の有形・無形の文化や自然を継承するために、地域で活躍する団体を顕彰し、応援することを目的に実施。

東日本旅客鉄道株式会社、住友ゴム工業株式会社、ジェットスター・ジャパン株式会社、読売新聞社等の協力・後援を得て、全国からプロジェクトを募集し、専門家や企業人から構成される未来遺産委員会で「プロジェクト未来遺産2019」を3件決定し、登録した。

—「プロジェクト未来遺産2019」（プロジェクト名・団体名・所在地）—

●秋田の聖農・石川理紀之助の教えの継承と「草木谷」の環境保全活動

（NPO法人草木谷を守る会/秋田県潟上市）

●美濃流し仁輪加～地方に華咲く言葉の文化～

（美濃市仁輪加連盟/岐阜県美濃市）

●創作組踊「糸蒲の縁（いとかまのえん）」で地域の子も達を育み新たな文化を繋ぐ

（南上原組踊保存会/沖縄県中頭郡中城村）

③ その他の関連事業

世界遺産に関する理解を深め、自然や文化の多様性を広く一般に伝えるため、国内での世界遺産事業啓発に資する企業との連携を検討・実施した。

(6) 海外との連携

以下の事業を実施し、国際相互理解の促進に寄与した。

① アジア太平洋ユネスコ協会クラブ連盟（AFUCA）の活動振興

第14回目となる「三菱アジア子ども絵日記フェスタ」を、AFUCA加盟団体などと協働して実施し、絵日記作品を募集した。

また、2019年度に予定されていた2年に1度開催される執行委員会（2020年度に延期）実施のための、各国との連絡調整を行ったほか、2019年9月7日および8日に東京都豊島区で開催された「第75回日本ユネスコ運動全国大会 in 東京」に、中国および韓国のユネスコ協会連盟代表者を招待し、日本のユネスコ協会・クラブ会員との交流を深めた。

さらに、10月25日・26日の2日間、韓国ユネスコ協会連盟第34回全国大会への招待を受け、鈴木理事長等が出席した。その中で、同様に招待を受けて参加した中国、ネパール、カザフスタン、キルギスタンの代表者と活動の情報交換を行うとともに、来年のAFUCAの執行委員会（改選）についての協議も行った。

② 世界ユネスコ協会クラブ連盟（WFUCA）の活動振興

2019年秋に開催予定のWFUCA世界大会（大会は2020年度に延期）の調整業務のほか、WFUCAホームページための情報提供を行った。

③ UNESCO関連団体、支援先等からの要請に基づく協力

2019年度は特に要請が無かったため実施実績はなかった。

④ UNESCOとの協力協定事業

2012年2月にUNESCOと締結した日本国内での資金調達に関する協力協定に基づき、「UNESCO公式サポーター」企業である全日本空輸株式会社（ANA）より、マイレージ交換等によるUNESCOへの寄付が行われた。

⑤ UNESCOや国連が主導する国際年や国際の10年の広報活動

UNESCOが主導するESD（持続可能な開発のための教育）や国際社会が2030年を目途に国連が掲げるSDGs（持続可能な開発目標）に関してさまざまな媒体を通して広報し、事業テーマとして取り上げた。

2. 海外における平和構築活動

(1) 世界寺子屋運動支援活動

途上国において、公的教育を受けられずにいる人びと（大人や子ども）を対象に地域社会開発の拠点ともなるセンター等で、基本的人権である教育の機会を提供し、人材育成を行うと同時に、国際相互理解の促進に寄与した。

① アジア地域の途上国における識字・ノンフォーマル教育支援事業実施

A) カンボジア（アンコール寺子屋プロジェクト）

カンボジア教育省、シェムリアップ州教育局等と連携し、州内の村で子ども・成人を対象とした識字教育、技術訓練及び収入向上プログラムを実施した。2019年度は、州内の全12郡に分布する17軒の寺子屋が活動し、18軒目となるポペル寺子屋を新たに建設した。各種教育・収入向上の各プログラムには約1,300人が参加した。内訳は以下の通り。

識字クラス：501人、幼稚園クラス：235人、
復学支援クラス（小学校退学児童向け）：183人、
進学支援プログラム（復学クラス卒業後中学校に進学した生徒支援）：136人、
米の貸付：90家庭、小口融資：180家庭、伝統音楽：8家庭

また、自立運営に移行する寺子屋への支援および連携を継続し、運営委員への研修機会の提供、日本からのスタディツアー受け入れ支援などを行った。

B) アフガニスタン（アフガニスタン寺子屋プロジェクト）

アフガニスタン教育省識字局と連携し、カブール県、パルワン県、バーミヤン県において識字教育・技術訓練、収入向上事業を実施した。UNESCOが作成した新しい教科書を活用した識字クラスを20クラス実施し、515人が9カ月のクラスに参加した。識字クラスの実施にあわせて、教員への教授法やクラス計画に関する研修を教育省と共同で実施することで、クラスの質向上を目指した。また、技術訓練では6カ月間の裁縫クラスに306人が参加し、生地のカット、ミシンの使い方などを学んだ。なお、識字クラスおよび職業訓練クラスは、国内の紛争地から逃れてきた国内避難民のキャンプ5カ所でも行っている。カブール県中部のバグラミ郡では17軒目となる寺子屋の建設がほぼ完成し、開所式典や新しい識字や職業訓練クラス、寺子屋を運営する人びとへの研修が予定されている。

C) ネパール（ネパール寺子屋プロジェクト）

世界遺産「ルンビニ」周辺の14地域、カトマンズ近郊の4地域およびチトワン郡で、識字教育・技術訓練、収入向上事業を実施した。ルンビニ14地域での完全識字化を目指してフォローアップの識字クラス（4ヵ月）を継続し、150クラスで2,999人（女性=2,991人 男性=8人）が識字クラスで学ぶことができた。識字クラス卒業生を対象とした識字調査も開始され、生徒が基礎的な識字スキルを習得しただけでなく、自尊心の向上や行動範囲の広がり、社会参加などが見られた。また、寺子屋での幼稚園クラスでは41人が、成人女性のための初等教育クラスでは17人が学ぶなど、多様な活動が続けられている。ネパール政府からの要請を受け、中央ネパール南部のチトワン郡においてギタナガール寺子屋が完成し、2019年10月に開所式典が実施された。地域の人びと150人をはじめ、国会議員や地方政府の担当官も参加し、地域における寺子屋への期待がうかがえた。寺子屋では、電気工事の研修など新しいクラスが開始された。

D) ミャンマーでの寺子屋事業展開

ミャンマー識字リソースセンター（MLRC）と連携し、小中学校退学者や不就学の10歳～17歳の青少年を対象に、識字・算数・ライフスキルで構成された9ヵ月間の学習パッケージ「EXCEL」を提供した。対象地域は、ヤンゴン北部に位置するバゴ管区タナットピン、パウンデー、オクトウィン、ポカウンの4タウンシップの計17村で、各タウンシップで120名、合計480名の青少年が学んだ。本プロジェクトは2017年度からの3ヵ年計画で、2019年度は3年目となった。それを踏まえ、今後に向けて、EXCELの更なるニーズならびにGLCを活用した識字・職業訓練等の総合的なノンフォーマル教育のニーズ調査を実施した。

E) 世界寺子屋運動の新規プロジェクト調査

現中期計画が終わりを迎えるカンボジア、ネパールおよびミャンマーでの各事業について、次期計画のための調査を実施。新事業地や事業内容を検討した。新型コロナウイルス感染症拡大のため、第4四半期に予定されていた現地調査を見送ったため、引き続き2020年度に調査を実施する予定。

F) NHK「日本賞・日本ユネスコ協会連盟賞」の授与

世界の教育コンテンツの質向上を図ることを目的とした、NHK 主催の国際コンクール「日本賞」において、企画部門優秀賞「日本ユネスコ協会連盟賞」を授与した。授賞式は2019年11月8日に行われ、メディアセット・アフリカ・コミュニケーションズ（ケニア）による企画「アフリカに若い農家を」が受賞した。同賞は「その国の教育に役立ち、かつESD（持続可能な開発のための教育）に貢献する優れたテレビ番組の企画」を対象とするものである。

② その他の関連事業

A) 世界寺子屋運動 30 周年事業

30周年を迎える世界寺子屋運動を記念し、これまでの運動の成果を広く寄付協力者、活動協力者に伝え、次のステップの展望を考える「世界寺子屋運動30周年事業」を実施した。

9月7日～8日にかけて東京都豊島区の豊島区立目白小学校体育館で開催された全国大会では、「学びを通して地域を振り返る」をテーマに、運動30周年を総括した。（「第75回民間ユネスコ運動全国大会 in 東京」の項にて説明。）

また、同全国大会に招聘した元学習者については、それぞれ、協力者や市民・学校等を対象に、現地の様子を直接伝える「活動報告会」を実施した。

さらに、世界寺子屋運動へのこれまでの支援者に、感謝のポップアップカードを送付した。加えて、世界寺子屋運動サポーターの歌手倉木麻衣氏の協力により、カンボジアの寺子屋で作られたホテイアオイ製のバッグとロップイエ製フォトフレームを販売。寺子屋運動の認知度向上にもつなげた。

B) 書きそんじハガキ回収キャンペーン

2019年12月～2020年5月を特別強化月間と位置づけ、世界寺子屋運動の事業資金となる同キャンペーンを展開。各地のユネスコ協会・クラブ、企業、労働組合などの団体およびユネスコスクールをはじめとする学校と協力して実施した。

また、回収に協力をしてくれた学校をアフガニスタンやカンボジアの現地職員が訪問し、現地の子どもたちの様子や教育制度、活動様子や成果を紹介する出前授業を実施した。

C) 世界寺子屋運動協力者対象スタディツアー

世界寺子屋運動に協力するユネスコ協会や維持会員企業に、活動の成果を見て

いただくための「世界寺子屋運動協力者対象スタディツアー」を、2020年3月17日～21日の予定で企画したが、新型コロナウイルス感染症拡大を受け、中止となった。

(2) 「一杯のスプーン」支援活動

開発途上国の貧困層を対象に無償の医療等の支援を行った。下記の世界寺子屋運動事業地近郊にて、低所得者層の子どもおよび母親を主な対象として、栄養補助・医療支援を実施した。

① ネパール

世界遺産ルンビニ周辺の12地域において、低体重の子どもを対象に栄養補助食品の配布を4ヵ月間行った。累計で3,990人が栄養補助食品を受け取った。多くの子どもたちに体重の増加が見られた

② アフガニスタン

カブール市内のクリニック（サハ医療センター）での医療活動、薬の提供およびリハビリ治療の支援を行ったほか、栄養状態のよくない子どもへの栄養補助食品の提供を行った。2019年度は累計で134,175人がクリニックを訪れ、診療やリハビリ、薬の提供などを受けた。

(3) 世界遺産・地域遺産活動

持続可能な地球社会の実現に向け、世界遺産・地域遺産の保護・保全活動を通じ、有形・無形の文化や自然環境の継承に携わる人材を育成し、地域社会の理解促進をはかる事業。また、一般市民や協力者への広報活動、報告も行った。

① 世界遺産カンボジア・バイヨン寺院彫像修復事業

カンボジアの世界遺産「アンコール」にあるバイヨン寺院「シンハ像・ナーガ像」の修復ならびに保存技術を継承する人材育成を引き続き実施した。本事業で育成された修復人材の活躍で、バイヨン寺院外回廊周囲の欄干とシンハ像・ナーガ像の修復がほぼ完了した。並行して、コミュニティの参画を通じた世界遺産の保全・継承の仕組みの構築を目指し、塗り絵教材を5,000部製作して子どもたちの学習教材として提供した。また、地元の子どもたちへのスタディビジットを実施し、42人が「アンコール」について学習することができた。

② その他の関連事業

アジアにあるUNESCO地域事務所の世界遺産関連事業の情報を得つつ、日本ユネスコ協会連盟が行うべき世界遺産活動の方向性、新規事業の案件形成を検討した。

3. 財務体質の強化

3ヵ年計画に基づき、民間ユネスコ運動の発展の基盤となる財務体質について、多様な手段（募金、寄付金、遺贈、事業収入）を駆使して強化を行った。

(1) 支援者強化

会員、特に維持会員を中心に拡充を行い、同時に、民間ユネスコ運動の協力者や支援者の増強を行った。また、会員証を作成し、維持会員139社に贈呈した。

(2) 募金者への報告と継続依頼の呼びかけの強化

年間領収書送付時に、募金者に支援者からのメッセージを同封し、継続的な支援を得るよう働きかけた。

(3) 「活動レポート」の制作・発送

募金により実施した事業の成果を募金者に報告するために「ユネスコ活動レポート2018」を制作・配布した。

(4) 民間資金・公的資金ファンドレイジング企画

企業と日ユ協連の協働が双方にとって意義あるような寄付の仕組みを企画立案し、法人や団体に提案、また同時に日ユ協連の事業方針にマッチする公的資金の調査・検討を行った。

Ⅱ 組織

(2020年3月31日現在)

1. 理事 (27) (五十音順) (* 代表理事)

会長	佐藤 美樹*	朝日生命保険相互会社 取締役会長	非常勤<維持>
副会長	青木 保	ICOM日本委員会 委員長	非常勤<賛助>
副会長	引地 瑠美子	白石ユネスコ協会 顧問	非常勤<個人>
理事長	鈴木 佑司*	法政大学 名誉教授	非常勤<会推>
理事	安達 仁美	信州大学教育学部 准教授	非常勤<個人>
理事	及川 幸彦	東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター主幹研究員	非常勤<個人>
理事	大津 和子	北海道ユネスコ連絡協議会 会長	非常勤<個人>
理事	片島 康彦	株式会社電通 総務局 社会貢献部 シニア・ディレクター	非常勤<維持>
理事	工藤 昌雄	盛岡ユネスコ協会 会長	非常勤<構成>
理事	小池 治	特定非営利活動法人鎌倉ユネスコ協会 理事	非常勤<構成>
理事	齋藤 雅之	株式会社オリエントコーポレーション 取締役会長	非常勤<会推>
理事	芝本 和己	和歌山ユネスコ協会 会長	非常勤<構成>
理事	白石 勝洋	久留米ユネスコ協会 会長	非常勤<構成>
理事	鈴木 郁香	柏ユネスコ協会 理事	非常勤<青年>
理事	外岡 学	札幌ユネスコ協会 副会長	非常勤<構成>
理事	名取 亮介	長野ユネスコ協会 理事	非常勤<青年>
理事	南口 純一	公益財団法人全国税理士共栄会文化財団 顧問	非常勤<会推>
理事	二瓶 和敏	二瓶総合法律事務所 弁護士	非常勤<個人>
理事	東 良和	沖縄ツーリスト株式会社 代表取締役会長	非常勤<維持>
理事	平井 花画	岐阜県ユネスコ協会 会長	非常勤<構成>
理事	牧 貞夫	エヌ・ティ・ティ都市開発株式会社 相談役	非常勤<維持>
理事	松岡 盛人	広島ユネスコ協会 会長	非常勤<構成>
理事	宮下 晶子	特定非営利活動法人目黒ユネスコ協会 会長	非常勤<構成>
理事	安田 昌則	大牟田市教育委員会 教育長	非常勤<個人>
理事	吉崎 晴子	認定特定非営利活動法人市川市ユネスコ協会 会長	非常勤<構成>
理事	吉田 敦彦	大阪府立大学 副学長	非常勤<会推>
理事	吉田 達哉	新居浜ユネスコ協会 会長	非常勤<構成>

(注) <構成> : 構成団体会員代表、<賛助> : 賛助団体会員代表、<個人> : 個人会員代表、
<維持> : 維持会員代表、<青年> : 青年代表、<会推> : 会長推薦

2. 監事 (3)

監事	田口 修央	ANAホールディングス株式会社 CSR推進部 担当部長	非常勤
監事	永野 博	港ユネスコ協会 会長	非常勤
監事	増田 正志	増田公認会計士事務所 公認会計士	非常勤

3. 名誉会長 (2)

大橋洋治 松田昌士

4. 顧問 (12)

糟谷勝一	加藤玲子	児島 仁	千 玄室
千葉果弘	西村幸夫	野口昇	濱中昭一郎
福原義春	松浦晃一郎	村田昌志	米田伸次

5. 評議員数

会員種別	人数	定員
構成団体会員	100人	100人以内
(うち青年代表)	(9人)	(9人以内)
(うち国内委員会委員)	(9人)	(9人以内)
賛助団体会員	2人	5人以内
個人会員	26人	30人以内
維持会員	10人	15人以内
計	138人	150人以内

6. 会員数

会員種別	2018年度末	減	増	2019年度末
構成団体会員	278	2	2	278
賛助団体会員	19	0	0	19
個人・終身個人会員	257	21	12	248
維持会員	115	0	26	141
計	669	23	40	686

7. 会員の異動

構成団体会員

<入会> 2

岩出ユネスコ協会

2019年5月18日第528回理事会承認

江差ユネスコ協会

2019年5月18日第528回理事会承認

<退会> 2

佐用郡ユネスコ協会、たまりばユネスコ倶楽部

<名称変更> 1

一般社団法人新宿ユネスコ協会
丹波篠山ユネスコ協会

2019年5月18日第528回理事会承認

2019年6月15日第529回理事会承認

賛助団体会員

<入会> 0

<退会> 0

個人会員

<入会> 12

<退会> 21

維持会員

<入会> 26

株式会社NTTファシリティーズ

2019年5月18日第528回理事会承認

株式会社かんぽ生命保険

黒田精工株式会社

国際セーフティー株式会社

全国税理士共栄会

株式会社千代田組

株式会社東京ドーム

トッパン・フォームズ株式会社

日本空港ビルデング株式会社

日本ピストンリング株式会社

光写真印刷株式会社

株式会社富士通ゼネラル

レイ法律事務所

朝日不動産管理株式会社

2019年6月15日第529回理事会承認

北日本ビル管理株式会社

東京海上日動火災保険株式会社

株式会社オリエントコーポレーション

2019年7月20日第531回理事会承認

株式会社新生銀行

税理士法人添石総合会計事務所

東急建設株式会社

2019年11月16日第532回理事会承認

株式会社東京放送ホールディングス

匿名企業1社

アオイネオン株式会社

2020年1月18日第533回理事会承認

大和証券株式会社

株式会社カスタムライフ

2020年3月14日第534回理事会承認

株式会社タイキ

<退会> 0

8. 地域的なユネスコ活動の領域を代表する日本ユネスコ国内委員会委員 (2020年3月末現在)

北海道	林 朋子 (旭川ユネスコ協会会長)
東北	見上 一幸 (仙台ユネスコ協会会長)
関東・甲信越	木間 明子 (朝日生命ユネスコクラブ副会長)
関東・甲信越	石井 尚子 (厚木ユネスコ協会副会長)
中部	箕浦有見子 (岐阜県ユネスコ協会青年担当理事)
近畿	片山 勝 (長浜ユネスコ協会会長)
中国	岡崎 環 (宮島ユネスコ協会副会長)
四国	野本 祥子 (丸亀ユネスコ協会理事)
九州	市丸 祥子 (久留米ユネスコ協会総務)

Ⅲ 会 議

1. 総会

第69回定時総会

日 時 2019年6月15日(土) 14:30~16:30

場 所 大手町サンスカイルーム 27階 A室

議 長 会長 大橋 洋治

議決権を有する社員の総数 642名

総議決権数 642個

出席社員数 388名(議決権行使書提出者を含む)

出席の社員が有する議決権数 388個

【決議事項】

第1号議案 2018年度事業報告書(案)および計算書類等(案)について

第2号議案 評議員及び理事・監事の選出について

第3号議案 「構成団体会員の会費」に対する今後の進め方について

その他

【報告事項】

1. 2019年度事業計画書および予算書

2. その他

2. 理事会

第528回理事会

日 時 2019年5月18日(土) 12:30~14:30

場 所 東京都・大手町サンスカイルーム 27階 B室

議 長 会長 大橋 洋治

出席者 22名(理事総数28名)

議 題

I. 第527回理事会議事要録の確認

II. 協議事項

1. 会員の入退会について

2. 2018年度事業報告書(案)および2018年度計算書類等(案)

(1) 2018年度事業報告書(案)

(2) 2018年度計算書類等(案)

3. 第70回定時総会について

4. その他

III. 報告事項

1. 委員会・部会等の報告

(1) 組織部会

(2) 青年部会

(3) 世界寺子屋部会

(4) 地域代表・青年代表理事会議

(5) 組織・活動委員会

- (6)財務部会
- (7)選考委員会
- 2. 2019年3月から5月までの事業報告および今後の日程(案)
- 3. 後援・共催事業
- 4. その他

第529回理事会

日 時 2019年6月15日(土) 13:15~13:45

場 所 大手町サンスカイルーム 27階 B室

議 長 会長 大橋 洋治

出席者 20名 (理事総数28名)

議 題

I. 第528回理事会議事要録(案)の承認

II. 協議事項

1. 会員の入退会について

2. その他

・世界寺子屋部会の存続について

III. 報告事項

1. 「第1号議案 2018年度事業報告書(案)」の一部訂正について

2. 委員会・部会等の報告

・青年部会

3. 2019年6月の事業報告及び今後の日程(案)

4. 後援・共催事業

5. その他

第530回理事会

日 時 2019年6月15日(土) 16:30~17:00

場 所 大手町サンスカイルーム 27階 B室

議 長 会長 佐藤 美樹

出席者 20名 (理事総数28名)

議 題

I. 協議事項

1. 代表理事・会長の選定について

2. 副会長、代表理事・理事長の選定について

3. 名誉会長、顧問の選任について

4. その他

第531回理事会

日 時 2019年7月20日(土) 14:45~16:45

場 所 大手町サンスカイルーム 27階 B室

議 長 会長 佐藤 美樹

出席者 19名 (理事総数27名)

議 題

- I. 第 529 回理事会議事要録(案)の承認
第 530 回理事会議事要録の確認
- II. 協議事項
 1. 会員の入退会について
 2. 2019年度以降の理事会運営に関する基本方針(案)について
・委員会・部会等の設置
 3. その他
- III. 報告事項
 1. 維持会員施策について
 2. 2019年6月から7月までの事業報告及び今後の日程(案)
 3. 後援・共催事業
 4. その他

第532回理事会

日 時 2019年11月16日(土) 12:30~14:30

場 所 大手町サンスカイルーム 27階 B室

議 長 会長 佐藤 美樹

出席者 21名 (理事総数27名)

議 題

- I. 第 531 回理事会議事要録(案)の承認
- II. 協議事項
 1. 会員の入退会
 2. 部会の設置
・「知と平和の文化部会」の設置
 3. 部会等からの提案事項等
 - (1) 組織部会
 - (2) 財務部会
 - (3) 定款・諸規程改定検討部会
 - (4) 地域代表・青年代表理事会議
 4. 「ユネスコ協会就学支援奨学金」の運営委員会の委員の委嘱
 5. 首里城復興ユネスコ募金の立ち上げ
 6. その他
- III. 報告事項
 1. 2019年度中間決算報告
 2. 加藤参与からの報告書(「経営戦略策定のための報告」)
 3. 全国大会の総括
 4. 2019年8月から11月までの事業報告及び今後の日程
 5. 後援・共催事業
 6. 情報セキュリティ監査報告
 7. その他

第533回理事会

日 時 2020年1月18日（土）12：30～14：30
場 所 大手町サンスカイルーム 27階 B室
議 長 会長 佐藤 美樹
出席者 20名（理事総数27名）

I. 第532回理事会議事要録(案)の承認

II. 協議事項

1. 会員の入会
2. 部会等からの提案事項等
 - (1) 組織部会
 - (2) 財務部会
 - (3) 定款・諸規程改定検討部会
 - (4) 地と平和の文化部会
 - (5) 地域代表・青年代表理事会議
3. 2020年度事業計画及び予算の骨子(案)
4. 財産管理運用規程の改定について
5. その他

III. 報告事項

1. 日本ユネスコ国内委員会委員(新任地域代表委員)の当連盟評議員就任について
2. 2019年11月から2020年1月までの事業報告及び今後の日程(案)
3. 後援・共催事業
4. その他

第534回理事会

日 時 2020年3月14日（土）（書面表決による開催）

I. 決議事項

1. 会員の入会
2. 2020年度事業計画書・予算書(案)
 - (1) 2020年度事業計画書(案)
 - (2) 2020年度予算書(案)資金調達及び設備投資の見込み(案)

3. 評議員会

第48回評議員会

日 時 2019年5月18日（土）14：45～17：15
場 所 大手町サンスカイルーム 27階 A室
議 長 会長 大橋 洋治
出席者 構成団体会員 49名
維持会員 5名
個人会員 16名
賛助団体会員 2名

青年代表	8名
ユネスコ国内委員	3名
上記以外の役員	1名
出席者計	83名
委任状	44通

議 題

1. 2019年1月～5月の事業報告及び今後の日程(案)
2. 2019年度事業計画書および予算書について
3. 委員会・部会等の報告
 - (1) 組織部会
 - (2) 青年部会
 - (3) 世界寺子屋部会
 - (4) 地域代表・青年代表理事会議
 - (5) 組織・活動委員会
 - (6) 財務部会
4. その他

講演会 テーマ：「SDGsと企業経営ー持続可能な社会と企業を目指してー」

講 師：損害保険ジャパン日本興亜株式会社 CSR室 シニアアドバイザー 関正雄氏

SDGs 高校生フォーラム参加報告

第49回評議員会

日 時 2019年11月16日(土) 14:45～17:45

場 所 大手町サンスカイルーム 27階 A室

議 長 会長 佐藤 美樹

出席者	構成団体会員	43名
	維持会員	1名
	個人会員	14名
	賛助団体会員	2名
	青年代表	7名
	ユネスコ国内委員	4名
	上記以外の役員	1名
	出席者計	71名
	委任状	55通

理事・評議員の紹介、評議員会の構成・評議員の役割等

議 題

1. 2019年度以降の理事会運営に関する基本方針
 2. 全国大会の総括
 3. 2019年6月～11月の事業報告及び今後の日程(案)
 4. これからの民間ユネスコ運動のあり方と2020年度からの変更点
 5. その他
- ブロック別情報交換会（構成団体会員代表・青年代表・国内委員会委員の評議員中心）

第50回評議員会

日 時 2020年1月18日(土) 14:45~16:45

場 所 大手町サンスカイルーム 27階 A室

議 長 会長 佐藤 美樹

出席者	構成団体会員	50名
	維持会員	3名
	個人会員	15名
	賛助団体会員	1名
	青年代表	6名
	ユネスコ国内委員	4名
	上記以外の役員	1名
	出席者計	79名
	委任状	45通

国内委員会委員(新任地域代表委員)の当連盟評議員就任並びにご紹介
議 題

1. 2019年11月~2020年1月の事業報告及び今後の日程
2. 部会等からの報告
 - (1) 組織部会
 - (2) 定款・諸規程改定検討部会
 - (3) 知と平和の文化部会
 - (4) 地域代表・青年代表理事会議
3. 2020年度事業計画及び予算の骨子(案)
4. その他

講演会 テーマ:「学校をめぐる最近のトピック」

講 師: 文部科学省 大臣官房総括審議官 串田俊巳 氏

4. 各種委員会等

- (1) 部会等 2019年4月~第70回定時総会(2019年6月15日)まで

第519回理事会(2017年11月11日)で承認された部会等で、民間ユネスコ運動のさらなる発展にむけた審議を行った。

① 組織・活動委員会

委員長: 野口昇(副会長) 副委員長: 林美紀子(副会長)

委 員: 佐々木毅(副会長)、引地瑠美子(副会長兼組織部会長)、鈴木佑司(理事長)、
佐藤美樹(理事兼財務部会長) 中野清史(理事兼青年部会長)、
笹井宏益(理事兼世界寺子屋部会長)、間瀬雅晴(理事兼財務部会副会長)、
二瓶和敏(理事)

内 容: 2018年~2020年の3ヵ年計画(中期計画)の策定とそのために本委員会のもとに設置された部会、並びに地域・青年代表理事会議、関連担当理事、ワーキンググループの全体調整を行った。

開催日: 2019年5月7日

② 財務部会

部会長：佐藤美樹（理事）

部会員：間瀬雅晴（理事/副部会長）、牧貞夫（理事）、松代隆子（理事）、小暮強志（評議員）、鈴木佑司（理事長）

内 容：当協会連盟の財務体質の現状分析と財務体制強化を中心に協議し、維持会員の拡充や遺贈の増強を行うべく検討を行った。

開催日：2019年4月19日

③ 組織部会

部会長：引地瑠美子（副会長）

部会員：吉崎晴子（理事）、二瓶和敏（理事）、浅井孝司（評議員）

内 容：会員の入退会、とりわけ新規に当協会連盟の構成団体会員として加盟を検討している団体について、加盟に向けた運営体制や活動について協議を行った。またユネスコ協会の今後の発展に向けた組織の様々な課題について議論した。

開催日：2019年5月7日

④ 世界寺子屋部会

部会員：朝倉洋子（理事）、大安喜一（評議員）

日ユ協連：林美紀子（副会長）

内 容：2019年度全国大会の初日（9月7日）プログラムの論点とパネリスト、および二日目（9月8日）プログラムの構成につき、検討・決定した。

開催日：2019年5月8日

⑤ 青年部会

部会長：中野清史（理事）

部会員：松波孝之（評議員）、名取亮介（理事）、朝井理沙子（全国的青年連絡組織代表）

内 容：青少年活動活性化の方針と助成策の策定、構成団体、特に地方ユネスコ協会との連携の模索、全国的青年連絡組織の活性化のための施策の策定等を協議した。

開催日：2019年5月19日

⑥ 地域代表・青年代表理事会議

議 長：池本和人（理事）

地域代表理事：朝倉洋子、川松美智子、芝本和己、下枝洋、土谷二郎、中野清史、中村孝也、橋村隆介、吉崎晴子

青年代表理事：鈴木郁香、名取亮介

内 容：構成団体会員に関する現状の把握、運動振興に関する様々な課題への集中的な議論及び理事会への提案等、今期は「会費・機関誌」「全国大会・ブロ研」に関する今後のあり方について議論し、理事会に提案した。

開催日：2019年5月18日

(2) 部会等 第70回定時総会（2019年6月15日）以降

第531回理事会（2019年7月20日）および第532回理事会（2019年11月16日）（※）で承認された部会等で、民間ユネスコ運動のさらなる発展にむけた審議を行った。

※「知と平和の文化部会」のみ第532回理事会にて承認

① 部会

ア. 世界寺子屋部会（前期からの継続）

テーマ・課題：2019年9月開催の全国大会に向けた準備、その後の諸業務（2019年9月末まで継続）

部会長：笹井宏益（評議員）

東京都ユ連：池田敬介（東京都ユ連会長）、朝倉洋子（同副会長）、斉藤真澄（同副会長）、木間明子（同事務局長）

開催日：2019年8月2日

イ. 組織部会

テーマ・課題：
・構成団体の入退会、その他の会員の承認等
・構成団体の運営に関する指導と助言
・全国大会、ブロック研究会等の運営指針
・青少年活動及び全国的青年組織の活性化策
・検討要請事項及び、正副部会長並びに事務局担当部との協議にて決定した事項

部会長：引地瑠美子（副会長）

部会員：二瓶和敏（理事/副部会長）、宮下晶子（理事）、鈴木郁香（理事）、串田昭光（評議員（高崎ユネスコ協会））

リソースパースン：安達仁美（理事）

開催日：2019年11月11日、2020年1月17日

ウ. 財務部会

テーマ・課題：
・財務構造の明確化、財務基盤の強化策（維持会員の拡充や遺贈の増強等）
・広報担当理事と連携したメディア活用の在り方
・検討要請事項及び、正副部会長並びに事務局担当部との協議にて決定した事項

部会長：牧貞夫（理事）

部会員：東良和（理事/副部会長）、片島康彦（理事）、平松哲郎（評議員（維持会員 日本土地建物株））

開催日：2019年11月7日、11月26日、12月16日、2020年2月13日

エ. 定款・諸規程改定検討部会

テーマ・課題：
・評議員および役員を選任に関する制度の見直し
・検討要請事項及び、正副部会長並びに事務局担当部との協議にて決定した事項

部会長：二瓶和敏(理事)

部会員：小池治(理事)、見上一幸(評議員(仙台ユネスコ協会))

開催日：2019年11月1日、12月23日、2020年2月28日、4月17日(書面開催)

オ. 知と平和の文化部会

テーマ・課題：・ユネスコの原点に立ち返り、長期的視点から教育、そして文化が果たす平和に対する役割とその今日的意味を明らかにする

・民間ユネスコ協会・クラブによる平和への取り組みの現状を把握し、地域における取組に寄り添いながらその伸張を促す新たな理念と企画を提供する

・検討要請事項及び、正副部会長並びに事務担当部との協議にて決定した事項を審議する

部会長：青木保(副会長)

部会員：吉田敦彦(理事/副部会長)、小池治(理事)、南口純一(理事)、安達仁美(理事)

開催日：2019年11月16日(準備会)

② 地域代表・青年代表理事会議

テーマ・課題：・地域内外および地域を超えた今後の民間ユネスコ運動のあり方の構築と理事の役割

・地域ユ協と連盟との連携促進策

・会長要請事項及び議長、副議長並びに事務局担当部との協議にて決定した事項

議長：白石勝洋

地域代表理事：吉崎晴子(副議長)、外岡学、工藤昌雄、宮下晶子、小池治、平井花画、芝本和巳、松岡盛人、吉田達哉

青年代表理事：鈴木郁香、名取亮介

開催日：2019年11月16日、2020年1月18日

③ 連盟幹部会

役割：統一的施策をスピーディーに実行すべく、各部会・会議間の連携を図る。

構成メンバー：佐藤美樹(会長)、青木保(副会長/知と平和の文化部会長)、引地理美子(副会長/組織部会長)、白石勝洋(理事/地域代表・青年代表理事会議議長)、二瓶和敏(理事/定款・諸規程改定検討部会長)、牧貞夫(理事/財務部会長)、鈴木佑司(理事長)

開催日：2019年11月11日、2020年1月17日

④ 担当理事との会合

ア. 広報関連担当理事との会合

広報関連担当に就任した東良和理事を中心に、日ユ協連の広報や企画業務内容についてのブリーフィングを逐次行うと同時に、必要に応じてリソースパーソンを交えながら、日ユ協連の企画・広報のあり方等について議論した。

イ. 未来遺産関連担当理事との会合

未来遺産関連担当に就任した牧貞夫理事と未来遺産運動に関する協議、協力企業との打ち合わせ等を逐次行った。また、2019年12月11日の未来遺産委員会へオブザーバーとして出席した。

ウ. 減災教育・復興支援担当理事との会合

減災教育・復興支援担当理事に就任した及川幸彦理事と「アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム」、「東日本大震災子ども支援募金 ユネスコ協会就学支援奨学金」、自然災害支援ガイドライン等に関する打ち合わせを逐次行った。

エ. ESD関連担当理事との会合

ESD関連担当に就任した大津和子理事とSDGsパスポート等に関する協議打ち合わせ等を逐次行った。

オ. ユネスコスクール関連担当理事との会合

ユネスコスクール関連担当に就任した安田昌則理事とユネスコスクール事業展開に関する協議打ち合わせ等を逐次行った。また、2019年11月30日に開催されたユネスコスクール全国大会・ESD研究大会における当連盟の分科会のコーディネーターを務めていただいた。

(3) 青少年ユネスコ活動助成審査会

委嘱事項：青少年ユネスコ活動助成の申請事業について、申請書類をもとに助成交付の可否及び助成交付金額の決定を行った。

審査委員：鈴木佑司（理事長）、引地瑠美子（副会長）、中野清史（理事）、小暮強志（評議員）

開催日：2019年5月7日

(4) 未来遺産委員会

委嘱事項：「プロジェクト未来遺産」の選考、調査協力、広報協力

委員長：西村幸夫（日ユ協連顧問、神戸芸術工科大学教授）

委員：齊藤裕嗣（独立行政法人 国立文化財機構東京文化財研究所 無形文化遺産部 客員研究員）、酒井暁子（横浜国立大学大学院環境情報研究院教授）、阪本未来子（東日本旅客鉄道株式会社常務執行役員）、鈴木佑司（公益社団法人日本ユネスコ協会連盟理事長）、高橋俊雄（日本放送協会解説委員）、土屋 誠（琉球大学名誉教授・琉球大学島嶼地域科学研究所客員研究員）、恒次徹（読売新聞東京本社編集局社会部部長）、永山健作（ジェットスター航空マーケティング&PR 本部本部長）、西山厚（帝塚山大学客員教授・半蔵門ミュージアム館長）、西山徳明（北海道大学教授）、橋本卓史（住友ゴム工業株式会社CSR推進室室長）、矢野和之（株式会社文化財保存計画協会代表取締役）、鷲谷いづみ（中央大学理工学部人間総合理工学科教授）

※委員の役職等は、委員会当時もの

開催日：2019年12月11日

附属明細書

2019 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2020 年 6 月

公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟